

新型コロナウイルス感染症影響調査の結果について (概要版)

■ 新型コロナウイルス感染症影響調査の概要	
1 調査の基本的な考え方	1
2 各調査の概要	1
■ 調査結果の要点	
1 社会面への影響	
(1-1) 山小屋・登山ガイド調査	2
(1-2) 山小屋・登山ガイド調査	3
(2) 富士登山意識調査	4
2 自然面への影響	5
3 今後の富士登山に関する意見	
(1) 山小屋・登山ガイド調査	6
(2) 富士登山意識調査	7

新型コロナウイルス感染症影響調査の概要

1 調査の基本的な考え方

- ◆富士山は、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の影響により、2020年は閉山し、2021年は新型コロナ対策を実施した上で開山したが、登山者数は過去最低となった。
- ◆今般の状況はこれまでないケースであり、閉山及び登山者の減少が富士登山に係る社会面・自然面へ与えた影響を把握しておくことは、今後の政策・施策を検討する際の基礎的知見として重要だと考えられる。
- ◆上記認識を踏まえ、2021年の状況について調査を実施し、その結果を取りまとめる。

2 各調査の概要

	山小屋調査	登山ガイド調査	富士登山意識調査
調査方法	アンケート（webまたは郵送を選択）	ヒアリング	ウェブアンケート
調査時期	2022年6月～7月	2022年6月～7月	2022年8月
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ コロナ前後の登山者の変化・ 登山者に対するコロナ対応・ 経営面におけるコロナ影響・ 今後の対策の方向性・ コロナ前後の富士山の自然環境面での変化	（山小屋調査と同様）	<ul style="list-style-type: none">・ 今後の富士登山意向・ 富士登山時に希望する形態・ 今後の対策に対する考え
調査対象	五合目以上の山小屋40軒 回収数 31軒（回収率77.5%） ※各登山道における組合・団体を対象に情報補完のためのヒアリングを実施（9名）	各登山道におけるガイド事業者の組合・団体及び一部事業者を対象に実施（計5回8名）	富士登山に興味のある成人（楽天インサイトモニター） 回収数 1,000人

調査結果の要点

1 社会面への影響

(1-1) 山小屋・登山ガイド調査

- ◆ 9割超の山小屋が県の基準等に沿った新型コロナ対策を講じ、宿泊定員は、平均値で約半分であった。また、登山ガイドも、グループ人数を少なくするなどの対策を講じていた。
- ◆ 山小屋宿泊者数は平均値で約7割減、宿泊・宿泊外での利用者が7～8割減ったとの回答が約5割を占めた。

宿泊定員数と開山期における総宿泊者数【中間報告3頁】

	区分	コロナ前 (2019年)		コロナ下 (2021年)	
		回答数	割合	回答数	割合
定員数	～50人	6	20.7%	14	48.3%
	51～100人	4	13.8%	7	24.1%
	101～200人	11	37.9%	8	27.6%
	201人～	8	27.6%	0	0.0%
	計	29	100.0%	29	100.0%
総宿泊者数	～1000人	9	36.0%	15	60.0%
	1001～2000人	3	12.0%	5	20.0%
	2001～3000人	2	8.0%	3	12.0%
	3001人～	11	44.0%	2	8.0%
	計	25	100.0%	25	100.0%

山小屋利用者数の変化 (2019年⇒2021年)【中間報告4頁】

	宿泊	宿泊外	宿泊	宿泊外
増えた	0	0	0.0%	0.0%
変わらなかった	0	1	0.0%	3.2%
1～2割減った	1	0	3.4%	0.0%
3～4割減った	4	3	13.8%	9.7%
5～6割減った	6	7	20.7%	22.6%
7～8割減った	15	15	51.7%	48.4%
9割以上減った	3	5	10.3%	16.1%
計	29	31	100.0%	100.0%

(考察)

- 大半の山小屋が新型コロナ対策を十分講じた一方、新型コロナの状況は日々変化していることから、今後、登山者数の回復が想定される中で、引き続き、山小屋等の意見も踏まえつつ、国内外の最新の状況変化に応じた対策が必要であると思われる。

(1-2) 山小屋・登山ガイド調査

- ◆ 従業員数は大幅に減らさず、宿泊料金の値上げも1～2割以内の山小屋が最も多かった。また、持続化給付金をはじめとする行政機関等の支援策を多くの山小屋が利用した。
- ◆ 新型コロナを契機とした経営方針の見直しについては、41.9%が宿泊料金を「変更しない」、35.5%が「値上げする」、19.4%が「未定」と回答している。また、宿泊定員数についても、38.7%が2021年の定員を「変更しない」、29.0%が「未定」と回答している。

新型コロナ下の対応（従業員数）【中間報告7頁】

	回答数	割合
増やした	0	0.0%
変えなかった	2	6.5%
1～2割減らした	10	32.3%
3～4割減らした	12	38.7%
5～6割減らした	5	16.1%
7～8割減らした	1	3.2%
9割以上減らした	1	3.2%
計	31	100.0%

新型コロナ下の対応（宿泊料金）【中間報告7頁】

	回答数	割合
5割以上上げた	1	3.4%
3～4割上げた	2	6.9%
1～2割上げた	16	55.2%
変えなかった	9	31.0%
1～2割下げた	1	3.4%
3～4割下げた	0	0.0%
5割以上下げた	0	0.0%
計	29	100.0%

新型コロナ後の経営方針（宿泊料金）【中間報告9頁】

宿泊料金	回答数	割合
値上げする	11	35.5%
変更しない	13	41.9%
値下げする	0	0.0%
未定	6	19.4%
その他	1	3.2%
計	31	100.0%

新型コロナ下の対応（定員数）【中間報告3頁】

	区分	コロナ前（2019年）		コロナ下（2021年）	
		回答数	割合	回答数	割合
定員数	～50人	6	20.7%	14	48.3%
	51～100人	4	13.8%	7	24.1%
	101～200人	11	37.9%	8	27.6%
	201人～	8	27.6%	0	0.0%
	計	29	100.0%	29	100.0%

新型コロナ後の経営方針（定員数）【空間報告9頁】

定員数	回答数	割合
増やす	3	9.7%
変更しない	12	38.7%
減らす	4	12.9%
未定	9	29.0%
その他	3	9.7%
計	31	100.0%

（考察）

- 山小屋の宿泊料金及び宿泊定員は、山小屋個別の経営判断の面がありつつ、他の山小屋の動向にも大きく影響されることが想定される。ただし、今回の調査結果からは「未定」を含めて各山小屋の意向は分かれており、新型コロナ後に向けてどの方向に変化していくか、今後も注視が必要である。

(2) 富士登山意識調査

- ◆ 富士登山に関心のある層（潜在的な富士登山者層）は、制限・要請がなければ仮に新型コロナが感染拡大傾向でも、65.5%は富士登山に行きたいという意向を持っている。
- ◆ 「登山形態を変えて登りたい」とした人の変更したい内容としては、「登山日の変更（混雑がより少ない日を選ぶ）」が最も多く50.0%、次いで「宿泊を伴わない行程に変更する」が41.9%となっている。

今後の富士登山意向（新型コロナ拡大時／登山意向のある人のみ）【中間報告24頁】

	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
希望する登山形態のまま登りたい	321	32.1%	206	22.3%	9.8%
登山形態を変えて登りたい	334	33.4%	243	26.3%	7.1%
登りたくない	345	34.5%	476	51.5%	-17.0%
計	1000	100.0%	925	100.0%	

登山形態を変えて登山する際の対応（新型コロナ拡大時／登山意向のある人のみ）【中間報告24頁】

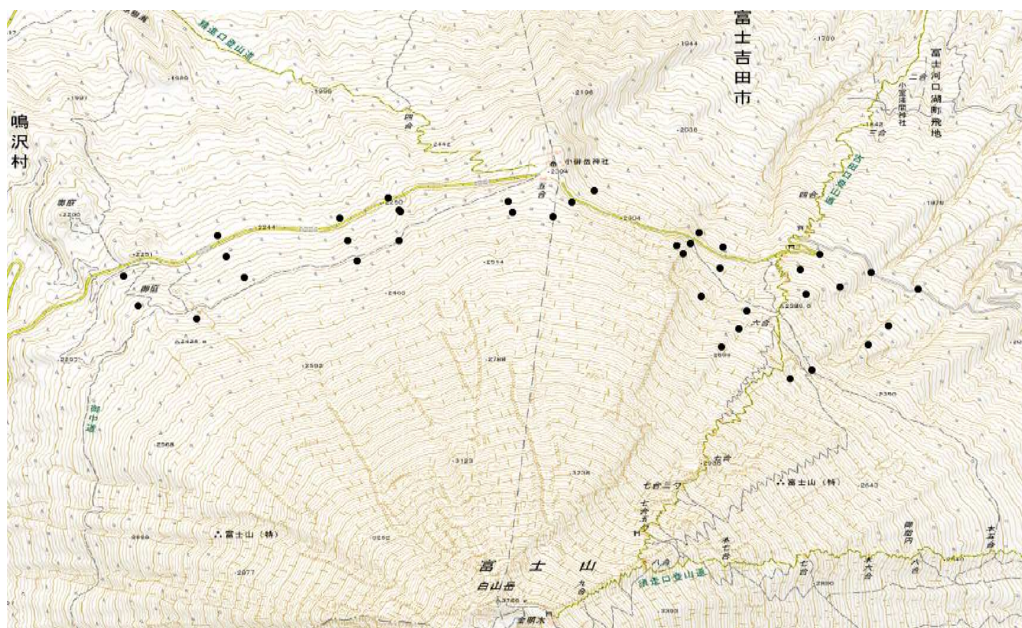
	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
登山ルートを変更する	121	36.2%	73	30.0%	6.2%
ご来光を目的としない行程に変更する	72	21.6%	51	21.0%	0.6%
宿泊を伴わない行程に変更する	140	41.9%	71	29.2%	12.7%
登山日を変更する（混雑がより少ない日を選ぶ）	167	50.0%	112	46.1%	3.9%
同行者を単独もしくは同居する家族に変更する	43	12.9%	31	12.8%	0.1%
同行者の人数を減らす	71	21.3%	62	25.5%	-4.3%
ガイド付き団体登山ツアーへの参加をやめる	41	12.3%	40	16.5%	-4.2%
その他	1	0.3%	0	0.0%	0.3%
計	334	100.0%	243	100.0%	

(考察)

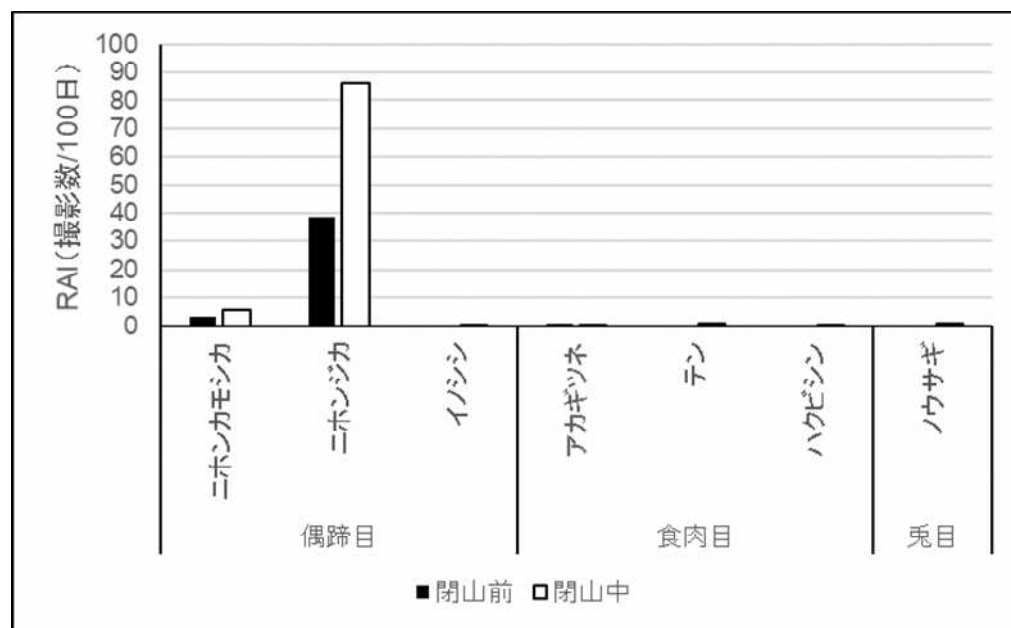
- 2020年度の調査時(2021年1月実施)と比較して新型コロナに対する不安はやや薄れ、感染及び制限・要請の状況等にはよるものの、大きな方向性としては登山者は回復に向かうことが推測される。
- ただし、引き続き混雑をできるだけ避けながら登山を行うことも想定され、混雑回避策の一つとして日帰り登山(弾丸を含む)が増える可能性があるため、引き続き弾丸登山の自粛や山小屋休息の奨励を継続する必要がある。

2 自然面への影響

- ◆ 山小屋及び登山ガイドへのアンケート・ヒアリングでは、富士山の植生等の自然、登山道・地表等の地質面での変化は確認されなかった。
- ◆ 山梨県富士山科学研究所による五合目から六合目周辺の中大型哺乳類の出現頻度に関する調査では、閉山による個体群への影響は確認されなかった。



調査地点：自動撮影カメラの設置地点
(●：合計35地点)



調査結果：各動物種の撮影頻度指数（RAI）の閉山前（2019年7・8月）と閉山中（2020年7・8月）の比較

3 今後の富士登山に関する意見

(1) 山小屋・登山ガイド調査

- ◆（今後解決すべき）富士登山が抱える課題としては、「弾丸登山や軽装備など登山知識の不足（77.4%）」「登山マナー（54.8%）」「週末やお盆時期の混雑（35.5%）」と新型コロナ前から指摘がなされてきた課題を引き続き挙げる声が多かった。このほか、「気候変動（35.5%）」「登山者数減少（32.3%）」「外国人対応（32.3%）」を挙げる割合も高かった。
- ◆課題の解決や今後の富士登山の在り方については、弾丸登山の抑制を求める声があるほか、ルート毎の対策を望む意見があった。

富士登山が抱える課題（山小屋アンケート・複数回答【中間報告10頁】）

区分	回答数	割合
混雑	11	35.5%
事故	3	9.7%
マナー	17	54.8%
環境破壊	4	12.9%
気候変動	11	35.5%
情報提供	10	32.3%
満足度	8	25.8%
知識不足	24	77.4%
コロナ対策	8	25.8%
外国人対応	10	32.3%
五合目アクセス	9	29.0%
登山者数減少	10	32.3%
その他	9	29.0%

■課題を解決するために必要なこと(自由記述)

- ・弾丸登山の抑制
- ・スバルラインの時間規制
- ・マイカー規制日の削減(登山者数の減少対策) 等

■富士登山の今後の在り方に関する意見(自由記述)

- ・弾丸登山をなくす
- ・規制を緩和して自由な登山を
- ・ルート毎の対策を強く望む 等

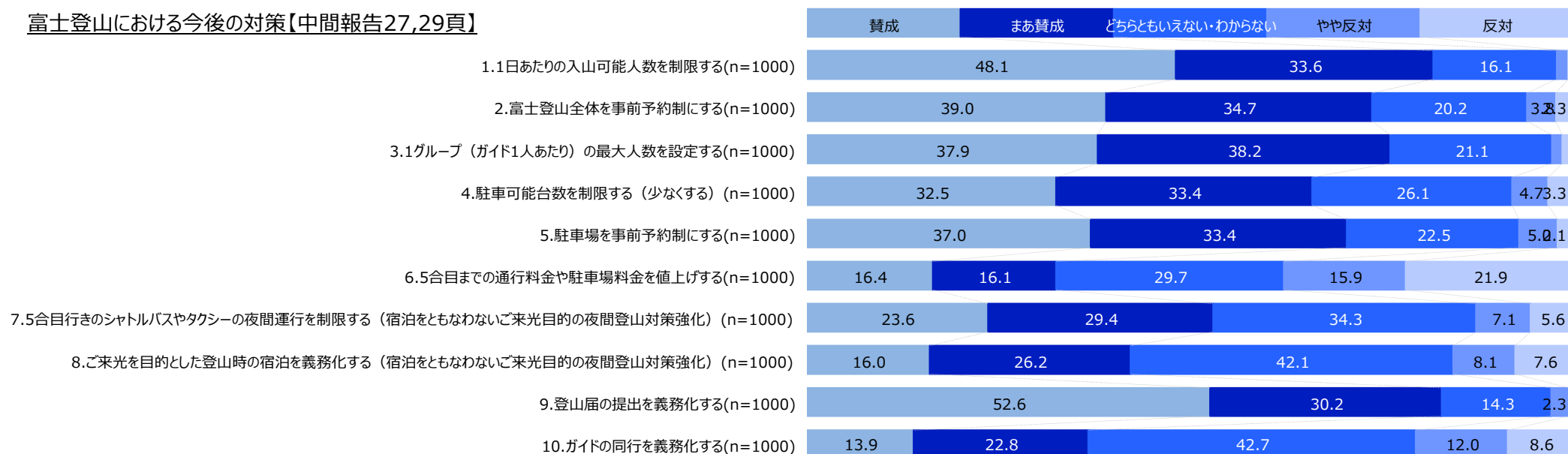
(考察)

- 登山知識の不足や登山マナー、混雑については、今後も対策を講じることが必要である。
- 登山者数の減少など登山ルート毎に異なる課題やその他の課題についても、今後の動向を注視し、必要な対策を講じる必要がある。

(2) 富士登山意識調査

- ◆ 富士登山における今後の対策案を示して「賛成」か「反対」を尋ねた結果を得点化したところ、賛成側の意向が高かった対策案として、順に「登山届を義務化する（1.32点）」「1日当たりの入山可能人数を制限する（1.27点）」「1グループ（ガイド1人あたり）の最大人数を設定する（1.10点）」となった。
 - ◆ 一方で、賛成側の意向が低かった対策案は、順に「五合目までの通行料金や駐車場料金を値上げする（▲0.11点）」「ガイドの同行を義務化する（0.21点）」「ご来光を目的とした登山時の宿泊を義務化する（0.35点）」となった。
- * 得点化は、「賛成」を2点、「反対」を▲2点、その間の回答を1点刻みの得点として、回答者の平均得点を算出した（全員が「賛成」だと2点となる計算）。

富士登山における今後の対策【中間報告27,29頁】



(2) 富士登山意識調査

(考察)

- ▶ 登山届の義務化や1日当たりの入山可能人数の制限、ガイド1人当たりのグループ人数の制限等については、富士登山に関心のある層から比較的賛成側の意向が高いことが確認された。
- ▶ 一方でいずれの対策案についても2020年度時点からやや賛成の意向は減少している。今回の調査だけでは要因の特定は難しいが、今後さらにどう変化するのか留意する必要がある。

富士登山における今後の対策【中間報告27,29頁】

登山届の提出を義務化する	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
賛成	526	52.6%	1147	61.7%	-9.1%
まあ賛成	302	30.2%	436	23.4%	6.8%
どちらともいえない・わからない	143	14.3%	219	11.8%	2.5%
やや反対	23	2.3%	37	2.0%	0.3%
反対	6	0.6%	21	1.1%	-0.5%
計	1000	100.0%	1860	100.0%	

1日あたりの入山可能人数を制限する	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
賛成	481	48.1%	1277	68.7%	-20.6%
まあ賛成	336	33.6%	440	23.7%	9.9%
どちらともいえない・わからない	161	16.1%	117	6.3%	9.8%
やや反対	15	1.5%	14	0.8%	0.7%
反対	7	0.7%	12	0.6%	0.1%
計	1000	100.0%	1860	100.0%	

1グループ（ガイド1人あたり）の最大人数を設定する	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
賛成	379	37.9%	1103	59.3%	-21.4%
まあ賛成	382	38.2%	499	26.8%	11.4%
どちらともいえない・わからない	211	21.1%	227	12.2%	8.9%
やや反対	13	1.3%	20	1.1%	0.2%
反対	15	1.5%	11	0.6%	0.9%
計	1000	100.0%	1860	100.0%	

富士登山全体を事前予約制にする	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
賛成	390	39.0%	1159	62.3%	-23.3%
まあ賛成	347	34.7%	455	24.5%	10.2%
どちらともいえない・わからない	202	20.2%	190	10.2%	10.0%
やや反対	38	3.8%	37	2.0%	1.8%
反対	23	2.3%	19	1.0%	1.3%
計	1000	100.0%	1860	100.0%	